

令和7年9月17日（水曜日）

佐伯市立東雲中学校 梅徳 里一先生の授業です。

授業の単元は、第2学年「1次関数」。連立方程式の解が2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることについて、根拠を明確にして説明する場面です。

導入では、前時までの復習として、連立方程式を解かせたり、1次関数の式について確認したりと丁寧に授業を展開する様子が見られました。机間指導を通して生徒の学習状況を確認し、個別指導を行うなど、全員が本時のねらいを達成できるように配慮した展開がなされていました。

また、生徒が連立方程式の解とグラフの交点の座標が一致することに気付いたタイミングで、梅徳先生から「なぜ、解と交点の座標が一致するのか」と質問を投げかけ、生徒が疑問を感じたところから課題設定を行っていました。

数学ソフトウェアを用い、2元1次方程式のグラフがこの方程式を成り立たせる解を座標とする点の集まりであることを視覚的に捉えることができるような図を大型モニターに映すなど、ICTの効果的な活用が見られました。

事後研では、少人数ならではのよさを生かし、一人一人の学習状況を把握した上で、それぞれに対する支援の手立てを講じること、めあての達成や課題の解決に必要な材料等を板書に示すといった板書の構造化を図ることの重要性等について確認しました。今後も一人一人を大切に、生徒が「分かった!」「できた!」と実感できるような授業づくりを行ってほしいと思います。

